



## 短木を利用したきのこ省力化栽培技術の確立

### はじめに

きのこの原木栽培は、シイタケで一般的に見られるように長木栽培が主ですが、長木栽培、短木栽培があり、それぞれに短所・長所が存在します。短木栽培は原木が軽いという長所であり、この方法を用いれば、これから高齢化する林家でも栽培が容易と考えられます。

また、シイタケ以外のきのこを栽培すると、副収入を得ることができるため、経営をより安定させることが可能となります。

このため、シイタケ以外のきのことしてヌメリスギタケを選び、その短木栽培を行い、高齢化する林家への栽培方法として採用できるか検討することを目的として、本試験を行いました。

### 栽培試験方法と結果

使用した種菌メーカーは2社で、90mmφのシャーレ内にPDA培地を20ml入れ、5mmφの試験片をシャーレ中央に静置しました。3週間後にフラットベッドスキャナーでヌメリスギタケコロニーの面積を測定しました。

この結果から、ヌメリスギタケの菌糸伸長最適温度は21℃であることがわかりました(図1)。

次に、原木として入手しやすいクルミ、サクラ、コナラを用い、種菌の接種方法について検討しました。種菌の接種方法は、ヒラタケなどで用いられている、種菌を原木で挟む方法(サンドイッチ方式 図2)とアラゲキクラゲ原木栽培で用いているビニール袋栽培(図3)と比較しました。

その結果、楕化率を比較すると、サンドイッチ方式の楕化率が高いことが判明しました。

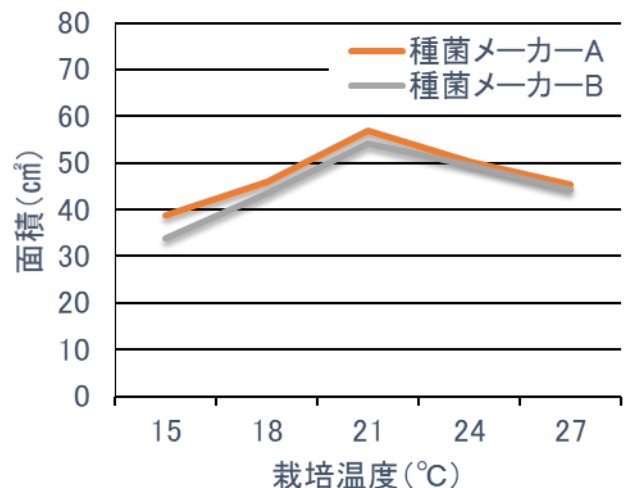


図1 ヌメリスギタケの温度特性



図2 サンドイッチ方式



図3 ビニール袋方式

表1 種菌接種方法による楯化率の比較

項目	メーカー	サクラ	コナラ	クルミ
楯化率 (%)	A	91.3	87.1	75.8
	B	90.2	88.4	73.9
収量 (g)	A	398.1	383.2	330.5
	B	379.6	392.4	318.5

次に入手しやすいクルミ、サクラ、コナラの原木を用いて、サンドイッチ方式による栽培試験を行いました。種菌はヌメリスギタケの2系統を使用しました。3か月後に、半分地中に埋める方法で本伏せを行い、楯化率、収量を調査しました(表1)

これらの結果からサクラ、コナラの原木を用いることでヌメリスギタケの栽培が可能であることがわかりました。コナラはシイタケ原木として需要の高いことから、サクラの原木で栽培することが推奨されます。

今後はスタートアップ研修などで普及を行っていきます。



図4 サクラ原木でのヌメリスギタケの発生の様子

作成：山梨県森林総合研究所  
森林研究部 生産科  
戸沢 一宏

連絡先  
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002  
メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp